

# 平成23年度職員提案の流れ

## 提案の募集

- ・7月1日～7月29日の期間で募集
- ・32件(フリー部門:26件、テーマ部門6件)の提案の応募

## 一次選考

- ・8月上旬において、事務局(行政管理課)による書類選考を実施
- ・32件⇒17件に選抜

## 二次選考

- ・8月下旬～9月上旬において、提案審査会委員5名による書類選考を実施
- ・17件⇒5件に選抜

※職員提案審査会委員は市長、両副市長、企画部長、総務部長

## 最終選考

- ・10月4日において、提案審査会委員5名によるプレゼンテーション選考を実施
- ・二次選考で選抜された5件に対し、**市長賞・1級・2級・3級・努力賞**の上位賞を決定
- ・二次選考で最終選考へ選抜されなかった提案12件を**奨励賞**に決定

## 表彰式

- ・10月11日において、上位賞受賞者へ市長より表彰
- ・表彰後、市長と上位賞受賞者の懇談を実施

# 各賞受賞提案一覧

## 《上位賞》

部門	件名	提案概要	賞
フリー	小田原市の食育ネットワークの構築	毎月の広報15日号に、各所管や市民団体が取組んでいる食育事業の募集やイベントやお知らせについて、紙面一箇所に統括し掲載するとともに、小田原市ホームページを活用し、毎月19日(食育の日)に、市民団体や行政が発信する食育関連記事を掲載する。また、ケーブルテレビで年間で食育を行った事業の総集編を組む。	市長賞
フリー	津波看板の設置について	市内の海拔の低いところで津波看板を設置し、海拔を明記する。また、海拔の低いところを中心として、高層建築物に「津波一時避難所」としての看板を設置し協力を求める。 津波看板のデザインを一般公募し、市民と一体になって連携をして災害に立ち向かう本市の防災意識をアピールするとともに、デザインはある程度のユーモア性を持ち、市民が関心を持つものとする。また、過去に起きた津波災害の到達表示をすることにより、災害を風化させず、尊い命から多くを学び、災害に備える。	1級
テーマ	小田原史観(仮称)に基づく、戦国時代の小田原のイメージアップ	小田原の街の魅力アップにつながるような前向きな歴史観を、「小田原史観(仮称)」と提唱する。また、「小田原市が、「小田原史観(仮称)」に基づいて「戦国時代の小田原」を検証し、主に、インターネットやテレビを介しての情報発信に努める。	2級
フリー	文書事務の手引きの庁内LAN公開	文書事務の手引きを庁内LANで公開する。庁内に効率的な基本事務方法を提示することにより、職員全体の事務不安の除去と事務効率化の恩恵をもたらす、行政力の向上に資する。	3級
フリー	今必要なのは“大人の朗読会”	大人向けの朗読会を開催し、叡智に富んだ大人の育成を図るとともに、大人の読書機会の増加を目指す。“無尽蔵”にある小田原出身、在住作家の作品群を活用し、硬派で高品位な朗読文化の振興を図る。	努力賞

## 《奨励賞》

部門	件名	提案概要	賞
テーマ	クールビズTシャツ義援金キャンペーン	「ファイト！日本！from小田原」震災被災地支援Tシャツキャンペーンを実施する。小田原市のマークの入ったTシャツを作成して販売し、その売上げの何割かを義援金とする。そのTシャツであれば、クールビズとして、期間中着用して職務が可能とする。 また、Tシャツは、職員だけでなく市民の方にも販売する。	奨励賞
テーマ	小田原井体験ツアーの実施について	観光客をターゲットとして様々な小田原の文化を体験していただき、魅力を実際に感じていただく。「小田原井作り」を体験していただくことで、観光客のみならず、B級グルメ好きにも効果を期待できる。合わせて、身体の不自由な方でも気軽に楽しめるように、観光自体に観光介助ボランティア制度を設ける。	奨励賞
テーマ	小田原グルメ詰め合わせセット販売について	小田原には全国に誇れるおいしいものが数々あるが、日本一になることは難しいと思われる。そこで、それぞれを詰め合わせにし、セット販売することで小田原の魅力をPRしていく。かまぼこ、干物、梅干、みかんなどを詰め合わせセットにし、3,000円くらいの価格で販売する。	奨励賞
フリー	災害時の通信連絡網として、インターネット電話の導入	災害時の通信連絡網として、インターネット電話サービス“skype(スカイプ)”を導入する。通信混雑に影響を受けない連絡網が必要。また、無線ほど大掛かりではなく、比較的簡単に配備・増設できるものが良い。	奨励賞
フリー	子どもに人気のある消防用車両をわんぱくらんどに設置	「わんぱくらんど」に消防自動車や救急車を常設展示し、火災予防週間期間などは、防災教育を行う場としても活用する。また、提示場所を整備し、車両更新により廃車(解役)となった消防自動車や救急車を輸送し、常設展示する。	奨励賞
フリー	地震発生時参集体制の見直し	現在、小田原市の参集体制は、震度5弱以上で全職員参集となっているが、近隣自治体と比べ全職員参集の基準が低いと言える。そこで、地理的な条件も異なることから一概に他市と比べられない部分はあるが、震度5弱発生時は配備職員の参集+α程度に留め、震度5強、もしくは6弱から全職員参集となるような体制を検討する。	奨励賞
フリー	若手職員の積極的登用について	昨年度結成されたコンプライアンスの特命チームのようなプロジェクトに若手職員を積極的に登用し、やりがいを感じさせるとともに、モチベーションの向上を図る。	奨励賞
フリー	災害時用オフロードバイクの導入	災害発生時の交通インフラ・通信インフラの麻痺に対応するため、オフロードバイク(自動二輪車)を導入する。	奨励賞
フリー	測量業務委託時における安全パトロールの実施	人目からの死角となる場所・道路、人通りの少ない場所等においても測量業務を行う測量士の業務形態を活かし、本市が測量業務を委託する際当該業者に安全パトロールを実施してもらう。	奨励賞
フリー	資格の兼任制度の活用について	電気主任技術者については1施設の選任のほか経済産業省の承認を得れば5施設まで兼任できる制度がある。この制度を活用しこの資格を有している職員を部内で共有し所管課以外の施設についても兼任させることで委託費の削減を図る。	奨励賞
フリー	臨時職員・嘱託員からの職員提案の受付	臨時職員や嘱託員からも職員提案を受け付ける。	奨励賞
フリー	職員採用試験の年齢制限を撤廃	職員採用試験の年齢制限を撤廃(または引き上げ)し、幅広い人材が職員採用試験を受験できるようにする。	奨励賞